

岐阜県カワウ管理・被害対策指針[概要]

現状

カワウの分布域の拡大 → 漁業被害の深刻化

- コロニーが1か所（H16）から8か所（R4）に増加し、内陸部へと分布が拡大
- 生息数は夏に多い（令和4年7月時点の生息数2,213羽）
- カワウの捕食による漁業被害額は増加傾向（H26 約4,100万円 → R2 約9,200万円）
- 漁業被害額のうちアユの占める割合は84.0%

目標

◆令和14年度までに夏季におけるカワウの生息数を半減

< 令和4年：2,213羽 → 令和14年：1,100羽 >

◆カワウによる漁業被害を減少させ、持続可能な水産漁業の振興を図る

主な改正点

- 指針表題 ⇒ 岐阜県カワウ管理・被害対策指針
- 被害軽減目標 ⇒ 2,213羽(R4) → 1,100羽(R14)
- 新技術の導入 ⇒ ドローンをはじめ、ICT技術を活用したカワウ対策の実施
- 実施体制 ⇒ 関係者の役割分担を明記
広域連携体制の整備
- 評価 ⇒ 毎年度の検討会開催(アクションプラン作成)
必要に応じた指針の見直し

指針の内容

はじめに

- ・SDGsの観点から水産資源の保全、利用について取り組む

第1章 カワウについての基礎知識及び被害の現状

- 1 基礎知識
 - 2 岐阜県におけるカワウの状況
 - 3 被害の現状
- 調査結果の最新データを基に生息状況を更新するとともに、被害額等を試算

第2章 目標と対策

1 被害軽減に向けた目標

【目標】令和14年度までに夏季における生息数を半減

2 対策

(1) 方針

- ・コロニー・ねぐらの分布管理や季節移動による動向把握
- ・飛来地での飛来数調査の実施
- ・繁殖による増加防止対策
- ・捕獲や追払いの継続のほか、新たな被害対策の検討

(2) 実施内容

- 生息状況調査
 - ・生息羽数調査の精度向上
 - ・新たなコロニー・ねぐらの探索
- 捕獲
 - ・漁協による飛来地での捕獲及び県による支援
 - ・コロニー・ねぐらでの分散回避に留意した捕獲
- 被害防除
 - ・防鳥糸やテープ張り等による被害防除
 - ・ロケット花火や爆竹等による追払い
- 新技術導入
 - ・ドローン等を活用した新たな対策手法の導入（追払い・繁殖抑制技術等）
 - ・GPSロガー等を活用したカワウの行動域の調査
 - ・スマートフォンシステムを活用した飛来方向や捕獲場所等のカワウに関する情報の集約・共有

(3) 大規模コロニーの具体的対策

- ・鷺田橋下流、千本松原、徳山ダムの各コロニーにおける具体的な対策の実施

(4) 実施時期

- ・季節ごとの調査目的を整理

(5) 役割分担

- ・県のほか、漁業協同組合や関係機関の役割分担を明記

アクションプラン

毎年度、県漁連、県猟友会、専門事業者等及び県からなる関係者会議を開催

- ◆実施すべき取組検討
- ◆次年度予算への提言

第三者からなる会議により年度ごとの評価を実施(必要に応じて指針の見直し)